

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、死者1万5857人、行方不明者3059人のほり、震災から1年以上経った現在でも避難生活を余儀なくされている方が多数います。

大地震や豪雨などの自然現象は、人間の力でくい止めることは出来ませんが、あらかじめ被害の発生を想定したうえで、その被害を少しでも少なくするための取り組み

を行うことが可能です。この取り組みを「減災」といいます。当院でも①人工呼吸器やベッドのストッパーをとめる②点滴保管棚や物品保管庫の扉を閉め、転落を防止する③避難経路の確保—など様々な取り組みを行っています。

減災の取り組みは家庭でも実践することが出来ます。大地震の時にはテレビやタンスなどが容易に倒れ、下敷きになって大けがをし

たり、避難経路を塞いでしまったりする危険があります。テレビなどが倒れるのを防ぐには「耐震マット」を使用することをお勧めします。タンスなどの家具は、壁と固定することで倒れるのを防ぐことができます。就寝中はとっさの判断ができないため、倒れる危険のある家具の近くで就寝しないことも大切です。

災害は家族が一緒にいるときに起きるとは限りません。函館市では、津波発生時の被害状況や避難場所を記したハザードマップ、避難所情報を記した避難所マップを作成しています。また、安否確認には「災害伝言ダイヤル177」や「災害用伝言板サービス」を活用することが出来ます。

これらを活用し、普段から家族で自宅や職場・学校の近くの避難場所を確認し、被災時に家族が集合する場所や安否確認方法を決めておきましょう。災害はいつ起きるかわかりません。皆さんも減災への取り組みを出来ることから始めませんか。



函館中央病院
副看護師長(救急看護認定看護師)

鈴木 幹子さん

函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代)
<http://www.chubyo.com/>

診療科目／内科・消化器内科・循環器内科・眼科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科など全17科目
受付時間／9:00～11:30・14:00～16:00 ※土曜は午前のみ。科や時間帯によっては要予約。
休診日／日曜・祝日

